

4月16日 (金) 晴れ



**ニシキゴロモ**です。葉脈が紫色で葉の縁とのコントラストが美しいことからこの名が。よく庭に植えられているジュウニヒトエ（十二単）はこの仲間です。花の色が白色のものは比較的よく見つかるのですが、この青紫色の花と出会うことは少ないようです。（散策路）

←この2つはよく似ているのですが、写真を↓ご覧いただき、葉柄の有無に着目してください。

**キラソウ**です⇒

葉が地面に張り付くように広がることから地獄の釜すら蓋をしてしまいそうということから、ジゴクノカマノフタ（地獄の釜の蓋）という別名があります。薬草として優れ、民間療法では、切り傷から胃腸薬まで使われ、地域によっては「医者殺し」という呼び名もあるようです。

（散策路）



当地には、これまで8種類のスミレが確認されています。この2種類については、現在、新種かどうか確認中です。

4月28日（水） 晴れ **春山を紫色に染めるヤマフジ**



杉の大木を紫色に覆いつくす景観は圧巻です！



### **ウツギ(空木)**

茎が中空であることからこの名が。

花は卯月（旧暦4月）に咲くことから「卯の花」と呼ばれます。「枕草子」には、ホトトギスの鳴き声を聞きに行った清少納言一行が、卯の花の枝を折って車に飾って帰京する話があります。近代では、唱歌『夏は来ぬ』で歌われていますが、古くから初夏の風物詩と

なっています。地域によっては、田植えの時期に咲くことから「田植え花」とも呼ばれているようです。

5月7日(金) 晴れ



**「年々、モリアオガエルの産卵が増えてきました！！」**

「山および里の恵みビオトープ」にモリアオガエルの産卵が始まりました。

これから6月に向けてどんどん産卵してほしいものです。モリアオガエルの存在は、豊かな山里の象徴でもあります。地域限定の国指定の天然記念物です。レッドリストにも挙げられていますが、飼育することはできます。寿命は、人間の飼育下では10年ほどらしいです。樹上での生活に特化した日本の固有種です。



**左:キエビネ 下:ジエビネ**

当地にはかろうじて自生しています。全国的にブームになった頃は激しい乱獲の的になりました。

特に、キエビネはほんの数株を大切に見守っています。

(いずれも保護区域内)

